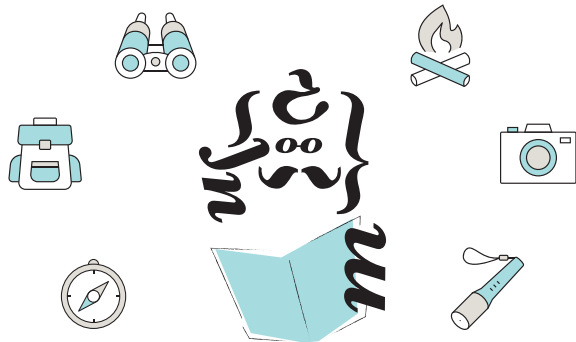


…じんぶん堂4周年記念ブックフェア…
探訪! 知のワンダーランド



4th Anniversary

じんぶん堂

powered by 好書好日

人文書の魅力を伝えるウェブサイト「じんぶん堂」はおかげさまで4周年を迎えました。幅広いジャンルを取り扱う人文書の世界は不思議や驚きに満ちあふれ、新たな発見が待っています。今フェアでは協力する出版社のほか、柄谷行人さんと読書猿さんにおすすめの一冊を紹介してもらいました。奥深い人文書の世界を探訪するきっかけになることを願っています。

<https://book.asahi.com/jinbun/>



じんぶん堂は出版社と朝日新聞社による、人文書の魅力を伝えていくプロジェクトです。
フェア参加社：明石書店、朝倉書店、WAVE出版、芸術新聞社、幻戯書房、春秋社、晶文社、筑摩書房、東京化学同人、白水社、平凡社



からたに・こうじん

柄谷行人さん

じんぶん堂で
「私の謎 柄谷行人回想録」を連載中



1941年生まれ。東京大学経済学部卒業、同大学大学院人文科学研究科英文学専攻課程修了。文芸批評から出発し、法政大学教授、イエール大学客員教授などを歴任。2022年にバーグルエン哲学・文化賞。22年度朝日賞。主な著書に『日本近代文学の起源』『探究I』『トランスクリティークー——カントとマルクス』『世界史の構造』ほか。著作は、英語や中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語などに翻訳されている。

● おすすめの一冊

柳田国男のスイス ——渡欧体験と一国民俗学

岡村民夫（著）

出版社：森話社

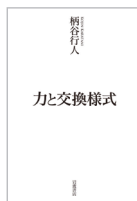
ISBN：9784864050449

定価：3,960円



柳田國男というと、日本の民俗学の始祖であり、国学の伝統を受け継いだ人として知られている。しかし、それでは理解できない謎がある。それは、柳田が、キリスト教徒の新渡戸稲造とともに、第一次大戦後ジュネーブの国際連盟で働き、また、エスペラント語を学んだことである。これまで、この問題は軽視されてきた。が、それを取り上げた本書が、世界戦争が現実化してきた現在、あらためて、重要な意義をになってあらわれた。

● 柄谷行人さんの著書



力と交換様式

柄谷行人（著）

出版社：岩波書店

ISBN：9784000615594

定価：3,850円

世界のあり方を「交換」の視点から読み解いてきた思想家の到達点。資本に国家と共同体が結びついた強固な体制を超える交換の「力」とは。



イラスト：塩川いづみ

どくしょざる 読書猿さん

ブログ「読書猿 Classic: between/beyond readers」主宰。1997年からメルマガを始め、2008年にブログ「読書猿 Classic」を開設。ギリシャ時代の古典から最新の論文、個人のTwitterの投稿まで、先人たちが残してきたありとあらゆる知を「独学者の道具箱」「語学の道具箱」「探しものの道具箱」などのカテゴリーにまとめ、独自の視点で紹介。著書に『アイデア大全』『問題解決大全』（共にフォレスト出版）、『独学大全』（ダイヤモンド社）。

● おすすめの一冊

証明の読み方・考え方〔原著第6版〕 ——数学的思考過程への手引き

Daniel Solow (著) / 西村康一 (訳) / 服部久美子 (訳)
出版社：共立出版
ISBN：9784320114982
定価：2,530円



数学の知が永続的な価値を持つのは、その対象がアイデア界にあるからではない。その知的営為が、数学が採用した《証明》という正当化手段によって、歴代の知的営為と永遠に結びつけられるからだ。数学は、ほぼすべての自然科学と大半の社会科学、そしてかなりの人文科学で用いられる、最も成功した人工言語である。本書は、人の営みとしての数学のコアにある《証明》に焦点をあわせた、数学という人工言語についての文章読本である。

● 読書猿さんの著書



独学大全 絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための 55の技法

読書猿 (著)
出版社：ダイヤモンド社
ISBN：9784478108536
定価：3,080円

学の意味から環境の作り方、具体的な学びの方法まで、著者が自らの蓄積をもとに55の技法にまとめた「独学者のバイブル」。この一冊が「知」の世界の入り口に。

創業者の出身地である兵庫県明石市から社名をとり1978年に創業。人権の尊重を基本理念として出版活動をおこなっています。webサイトは <https://www.akashi.co.jp/> Xは @akashishoten



おすすめの一冊

ダーリンはネトウヨ

—— 韓国人留学生の私が日本人とつきあったら

クー・ジャイン (著・訳) / 金みんじょん (訳) / Moment Joon (解説)

出版社：明石書店

ISBN：9784750356167

定価：1,430円

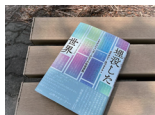


本書は、韓国人留学生うーちゃんが過ごした日本での日々や、「ダーリン」との出会いとその結末を、著者の実体験を基に描いたコミックエッセイです。期待を胸に日本に来たうーちゃんですが、日常の小さな「悪意のない」ヘイトによって少しずつ心を蝕まれていきます。かわいらしい絵柄からは想像できない、日本人マジョリティに対する鋭い問いかけに満ちた本書。うーちゃんの話は、私たちに日本社会や自分の足元をみつめる勇気を与えてくれます。

● じんぶん堂で紹介した記事



差別を許す「村」を変えるために——日本人マジョリティへの問いかけ：『ダーリンはネトウヨ』書評 (出口真紀子)



埋没しているのは誰か？ 高井ゆと里さんが読む『埋没した世界——トランスジェンダーふたりの往復書簡』



あさくらしょてん

朝倉書店

朝倉書店

出版社の朝倉書店です。創業1929年。理学・工学・医学・農学・人文科学・家政学などの学術専門書、および事典・辞典・ハンドブック、大学教科書を出版しています。



おすすめの1冊

ことばを科学する ——理論と実験で考える、新しい言語学入門

伊藤たかね (著)

出版社: 朝倉書店

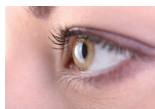
ISBN: 9784254510744

定価: 3,080円



言語は日常的に使われるものでありながら、「なぜそのように言うのか（言わないのか）」という不思議に満ちあふれています。本書では、不思議な言語現象を多数取り上げ、言語がどのような法則を持ち、人間の心・脳の中でどのように処理されているかを有名な実験例とともに学ぶことができます。主に日本語・英語の身近な例を中心に小さな疑問を拾い上げ、「言語とは何か、人間とは何か」という大きな問いに読者をいざなう一冊です。

● じんぶん堂で紹介した記事と本



ヒトの感じ方は色々あります

—『モノ』を通して『五感』の不思議を知る



『感覚知覚の心理学』

吉澤達也 (編)

ISBN: 9784254520347

1987年に創業。以来、東京は市ヶ谷の地で、「読者のリアルに寄り添う」をテーマに、人文、実用、文芸、ビジネスなど、様々なジャンルを出している出版社。2018年12月より、(株)ぎょうせいのグループ会社に。

公式HP➡ www.wave-publishers.co.jp 編集部X➡ @wavepublishers

営業部X➡ @WAVE_P Instagram➡ @wavepublishers_official



おすすめの一冊

10代から知っておきたい あなたを丸めこむ「ずるい言葉」

貴戸理恵 (著)

出版社：WAVE出版

ISBN：9784866214481

定価：1,650円



「同調圧力」がテーマの本書は、学校や職場、ひいては社会を「空気」や「ノリ」が支配することの問題点を、私たちの日常会話から拾いあげて指摘します。著者は「生きづらさ」の研究を専門にする社会学者。「あなたの人生に必要なことはあなたが決めていい」という、当たり前なのにながしろにされがちな考え方の重要性を説いた、若い世代にも届けたい一冊です。「暗黙のルール」に縛り付けられないための武器がここにあります！

● *じんぶん堂* で紹介した記事



日本社会に充満する空気から抜け出すための実用書
—『10代から知っておきたい あなたを丸めこむ「ずるい言葉」』書評 (評者：武田砂鉄)



スタジオジブリで学んだ、他者に必要とされる仕事術



げいじゅつしんぶんしゃ

芸術新聞社

藝

1951年(昭和26年)創業。書道専門誌「墨」、美術年刊誌「美術名典」他、書道・美術の優れた現代作家を紹介する書籍を多く手掛けています。さらに出版ジャンルは、芸術書全般から文芸書、人文書、実用書、絵本、漫画まで多岐に渡ります。「東京幻想作品集」「美人画シリーズ」「石飛流 書道好日」「満洲国グランドホテル」等々



おすすめの一冊

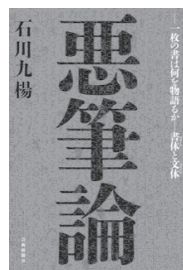
悪筆論

石川九楊(著)

出版社: 芸術新聞社

ISBN: 9784875866831

定価: 3,300円



書は文学とともにある。

すなわち文学は書とともにある。

本書は『悪筆論』——これこそは、「書とはどういう芸術か」の答えを求めて彷徨し、「書は筆触の芸術である」という解に到達した私の最終段階の「筆触論」、つまりは「書くとはどういうできごとか」の最終解答である。(本書より)

石川九楊(いしかわ・きゅうよう) 一九四五年福井県生まれ。京都大学法学部卒業。書家。京都精華大学名誉教授。著書に『書の終焉——近代書史論』(同朋舎出版、サントリー学芸賞受賞)、『近代書史』(名古屋大学出版会、大佛次郎賞受賞)、『日本書史』(名古屋大学出版会、毎日出版文化賞受賞)ほか多数。

● じんぶん堂で紹介した記事と本



満洲国とは日本人にとって何だったのか?

満洲国史から学ぶ「昭和史」の実像



『満洲国グランドホテル』

平山周吉(著)

ISBN: 9784875866398

幻戯書房は歌人で作家の辺見じゅんが、父であり、角川書店の創立者である角川源義の創業の精神を受け継ぎ、2002年に設立した出版社。後世に受け継ぐべき出版物を少数ながらも装幀、造本、また流通といった出版文化全体に目配りした出版活動を文芸書を中心に続けています。



おすすめの一冊

「雪女」、百年の伝承

—— 辺見じゅん・木下順二・鈴木サツ・松谷みよ子・
そしてハーン

遠田勝（著）

出版社：幻戯書房

ISBN：9784864882835

定価：3,080円

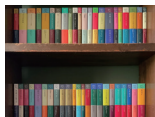


ひろく全国に伝播するはじまりは、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）『怪談』の日本語訳からだった。逆輸入された物語が、土着の「民話」となるのは、テレビアニメや出版での民話ビジネスとしての作為だけではなく、『遠野物語』の語り部・鈴木サツまでも語っているように、人々の語りたという心性もあったのではないか。古来の口碑然と書き換えられていく軌跡を、ハーン研究者が丹念に辿る。民俗研究者にも読んでほしい一冊。

● *じんぶん堂* で紹介した記事



民話「雪女」が各地に広がったのは、
ラフカディオ・ハーンの『怪談』からだった



〈ルリユール叢書〉の楽しみ



しゅんじゅうしゃ

春秋社



1918年創業。わが国初の「トルストイ全集」をはじめ、宗教・思想・哲学・心理・医療・音楽等の専門書の刊行をつづけ今日に至っている。HP：www.shunjusha.co.jp X：@shunjusha 編集部 Instagram：@shunjusha_ed web 春秋 はるとあき：haruaki.shunjusha.co.jp メールマガジン配信中登録は無料です。www.shunjusha.co.jp/company/cc1920.html



おすすめの一冊

掬われる声、語られる芸

——小沢昭一と『ドキュメント 日本の放浪芸』

鈴木聖子（著）

出版社：春秋社

ISBN：9784393441701

定価：2,750円



個性派俳優、あるいは名パーソナリティとして人々の記憶に残る小沢昭一が、希少な伝統芸能や節談説教、ストリップショーなどを担ってきた〈はずれ者〉たちと真摯に向き合い、忘れ去られつつあったかれらの〈芸〉をつぶさに記録し、語り継ごうとした『ドキュメント 日本の放浪芸』——契機となった著作『私は河原乞食・考』や録音メディアそのものへの詳細な分析、さらには多数の関係者への取材を通して、小沢さんと〈放浪芸〉とのかかわりを丁寧に読み解いた力作。

● じんぶん堂で紹介した記事



記憶をわちあう

—レコード・ディレクターがつかない坂本龍一と小沢昭一—



唯識ってナニモノ？

—『修行者達の唯識思想』—



しょうぶんしゃ

晶文社



東京・神保町にある、文学・芸術・人文を中心とした書籍と各種学校案内書を発行する出版社です。
犀のマークが目印です。HP：<https://www.shobunsha.co.jp/> X：[@shobunsha](https://twitter.com/shobunsha)



おすすめの一冊

教室を生きのびる政治学

岡田憲治 (著)

出版社：晶文社

ISBN：9784794973597

定価：1,870円



教室を社会の縮図と見立て、暮らしのなかで営まれる「政治」と「民主主義」を読みといていきます。話し合いは失敗するもの、友達じゃなくて仲間をつくる、自己責任論なんか無視しよう。ゴタゴタが絶えないコミュニティでは政治学がとにかく役に立つ、と著者は話します。「現実是不変」「言いたいことはたいがい言えない」……そんな逃れられない集団生活のなかで、少しでも自由に日々を生きていくための知恵とエモーションに満ちた一書です。

● *じんぶん堂* で紹介した記事と本



難しい評論文が大学入試で出題されるワケとは？

出題者の意図を探ってみる



『世界のいまを知り未来をつくる評論文読書案内——高校生から大人の学び直しまで』

小池陽慈 (著)

ISBN：9784794973023

ちくましょぼう

筑摩書房



東京のひがし・蔵前から注目の人文書をピックアップ！ 内容紹介やレビュー、著者インタビュー、イベントレポート、コラムなど、とびっきりの情報をお届けします。HP：www.chikumashobo.co.jp/
X：@chikumashobo



おすすめの一冊

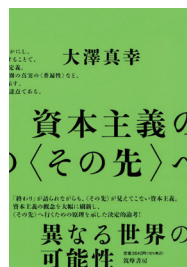
資本主義の〈その先〉へ

大澤真幸(著)

出版社：筑摩書房

ISBN：9784480867438

定価：2,640円



資本主義が経済的なシステムであることは間違いありません。でも、本当にそれだけ？ 資本主義の在り方を経済だけではなく、科学や小説といった視点から見直すことによって、その本質をえぐり出し、そこではじめて〈その先〉を構想することが出来る——。数ある資本主義論の中でも、その広さと射程において、これほどスケールの大きな本はなかったのではないのでしょうか。にもかかわらず、叙述は明晰。画期的な一冊だと思います。

● じんぶん堂で紹介した記事



「資本主義学」という新たな学問、創設の試み

國分功一郎

—大澤真幸著『資本主義の〈その先〉へ』書評



「原爆の父」と呼ばれた科学者の実像

—『ロバート・オッペンハイマー』（藤永茂著）より



とうきょうかがくどうじん

東京化学同人



科学系の書籍および月刊誌「現代化学」を刊行している出版社です。
ホームページは <https://www.tkd-pbl.com/> Xアカウントは @tkd_pbl



おすすめの冊

女性が科学の扉を開くとき

— 偏見と差別に對峙した六〇年

NSF(米国国立科学財団)長官を務めた科学者が語る

リタ・コルウェル、シャロン・バーチュ・マグレイン (著) /
大隅典子 (監訳) / 古川奈々子 (訳)

出版社: 東京化学同人

ISBN: 9784807920501

定価: 3,520円



「女の子に科学はムリ」、「女子学生に奨学金も修士課程も無駄」…。1960年代の米国科学界には著しい性差別があった。そんな時代に科学の道を志し、NSF(米国国立科学財団)初の女性長官となったリタ・コルウェル博士が、60年にわたり科学界で見聞きしてきた記録。米国の女性科学者たちは、ジェンダーギャップにどう向き合い、変化を起こしたのか。「科学の未来のために何ができるか」男女問わずよびかける科学への情熱が詰まった一冊。

● *じんぶん堂* で紹介した記事と本



性とは何か、愛とは何か。化学でみる写真集。

『愛と分子: 惹かれあう二人のケミストリー』



『愛と分子 惹かれあう二人のケミストリー』

菊水健史 (著)

ISBN: 9784807909308

はくすいしゃ

白水社



1915年創立の出版社です。哲学・歴史・文学・芸術・語学などの書籍が中心。ホームページは www.hakusuisha.co.jp Xアカウントは @hakusuisha



おすすめの一冊

歌詞のサウンドテクスチャー ——うたをめぐる音声詞学論考

木石岳 (著)

出版社: 白水社

ISBN: 9784560093450

定価: 2,970円



YOASOBI、米津玄師、Ado、NewJeans……新時代のポップスが楽しめる「耳寄りな学問」にようこそ! オノマトペ、音象徴、ポケモン言語学など、最新の学術研究もふまえ、アーティストたちの魔法のような「作詞術」について、わかりやすく解説。宇多田ヒカルや椎名林檎をはじめ、きゃりーぱみゅぱみゅ、King Gnu、KOHH、藤井風まで、譜例とともに分析 (YouTube再生できるQRコードも多数収録)。言語学+音声学+認知心理学+脳科学=「音声詞学」の入門書。

● *じんぶん*堂で紹介した記事



アニメ【推しの子】主題歌、YOASOBI「アイドル」の衝撃
—『歌詞のサウンドテクスチャー』から考える (前半)



ブルシット・ジョブから脱却する3つの約束
ラトウシュ『脱成長もたらす働き方の改革』



へいぼんしゃ

平凡社



1914年創業。1931年『大百科事典』を編纂、辞典の出版社としての礎を築く一方、本格的グラフィック誌『太陽』を創刊するなど多様な出版物を生み、今日に至る。HP:www.heibonsha.co.jp
X:@heibonshatoday



おすすめの1冊

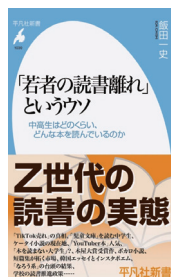
「若者の読書離れ」というウソ

飯田一史(著)

出版社: 平凡社

ISBN: 9784582860306

定価: 1,078円



なぜ「若者は本を読まない」という事実と異なる説が当たり前のように語られるのだろうか。実際にはこの20年間で、小中学生の平均読書冊数はV字回復している。本書は各種データと10代が実際に読んでいる人気の本から、中高生が本に求める「三大ニーズ」とそれに応える「四つの型」を提示する。「TikTok売れ」の実情や、変わりゆくラノベの読者層、広がる短篇集の需要など、読書傾向を通じてZ世代のカルチャーにも迫る。

● ぶんぶん堂で紹介した記事



「若者の本離れ」は幻想だった！
Z世代の読書事情に迫る



紫式部が伝える平安時代の宮廷生活と女房たちの実態

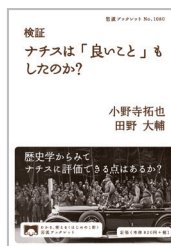


書店員さんのおすすめ

紀伊國屋書店の「じんぶん大賞」選考委員、丸善ジュンク堂書店の人文書担当者など、人文書に詳しい書店員さんから、「おすすめの一冊」を紹介していただきました。(敬称略)

紀伊國屋書店

横浜店・西口正一郎(紀伊國屋じんぶん大賞2024 選考委員)



検証

ナチスは「良いこと」もしたのか？

(紀伊國屋じんぶん大賞1位)

小野寺拓也(著) / 田野大輔(著)

出版社: 岩波書店

ISBN: 9784002710808 定価: 902円

本書は「ナチスは良いこともした」という言説を、歴史的アプローチで丁寧に検証している。都合よく歴史を切り取ることや歴史背景への不理解に対して、歴史学は事実ではなく事実性に立脚しなければいけないと説く。あらためてナチスについて学ぶことはもちろん、歴史学の入門書として、廉価なブックレットという体での刊行は喜ばしい。

札幌本店・山田萌果(紀伊國屋じんぶん大賞2024 選考委員)



タイミングの社会学

デテールを書くエスノグラフィー

(紀伊國屋じんぶん大賞2位)

石岡丈昇(著)

出版社: 青土社

ISBN: 9784791775569 定価: 3,080円

マニラの貧困世界を生きる人々に流れる「アウェーの時間」に着目した一冊。同情するのではなく、その状況と並走しそこから見える世界をつぶさに描き出す点が本書の特色である。困難な時代を生きてゆくには、「アウェーの時間」を生きる人々のように、自らが飲み込まれた世界を自らの手で対象化することが重要なのではないかと考えさせられた。

ジュンク堂書店 吉祥寺店・梅田昌伸



心的外傷と回復【増補新版】

ジュディス・L・ハーマン（著）／中井久夫（訳）／阿部大樹（訳）

出版社：みすず書房

ISBN：9784622096504 定価：5,940円

「本文400ページ、価格5000円強という、大部・大著をいきなりすすめられても・・・」と思うなかれ。かくいう私も、NHK『100分de名著』上間陽子さんの紹介に突き刺され、新版の発売を心待ちにしていたひとりです。「まず安全な場をもつこと、そして思い出すこと、服喪追悼すること、そしてコミュニティーにもう一度つながることである」。ハーマンが著し、中井久夫が私たちへ届けたこの大樹の枝が、次の世代に継がれていくこの瞬間に、ぜひ、あなたが立ち会ってください。

ジュンク堂書店 三宮店・谷口陽子



自殺帳

春日武彦（著）

出版社：晶文社

ISBN：9784794973863 定価：1,980円

この本は精神科医が自殺の様々な臨床例についてただ分析した本ではありません。それらを、「美学・哲学に殉じた自殺」「命と引き換えのメッセージとしての自殺」「完璧な逃亡としての自殺」など7つの型に分け、時に毒舌、時にクスッとさせる春日節にのせて論じていきます。とくに「漆黒のコアラ」と題された最終章の、たぶん著者が心に引っかかっていたであろう二人の患者についての考察は、必読です。